

多様な言語活動を通して、 学びを実感する子どもの育成



妙高高原北小学校チーム

齋藤 創(M1)

高山 朝香(M1)

阿部 直樹(M2)

松本 修(アドバイザー)

はじめに

I 問題の所在

II 支援の方法

III 支援の実際

IV 支援を通じた学び

はじめに

I 問題の所在

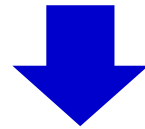
II 支援の方法

III 支援の実際

IV 支援を通じた学び

重点目標

自分の考えをもち、仲間と共に学びを深める子
(共同的な学びの推進)



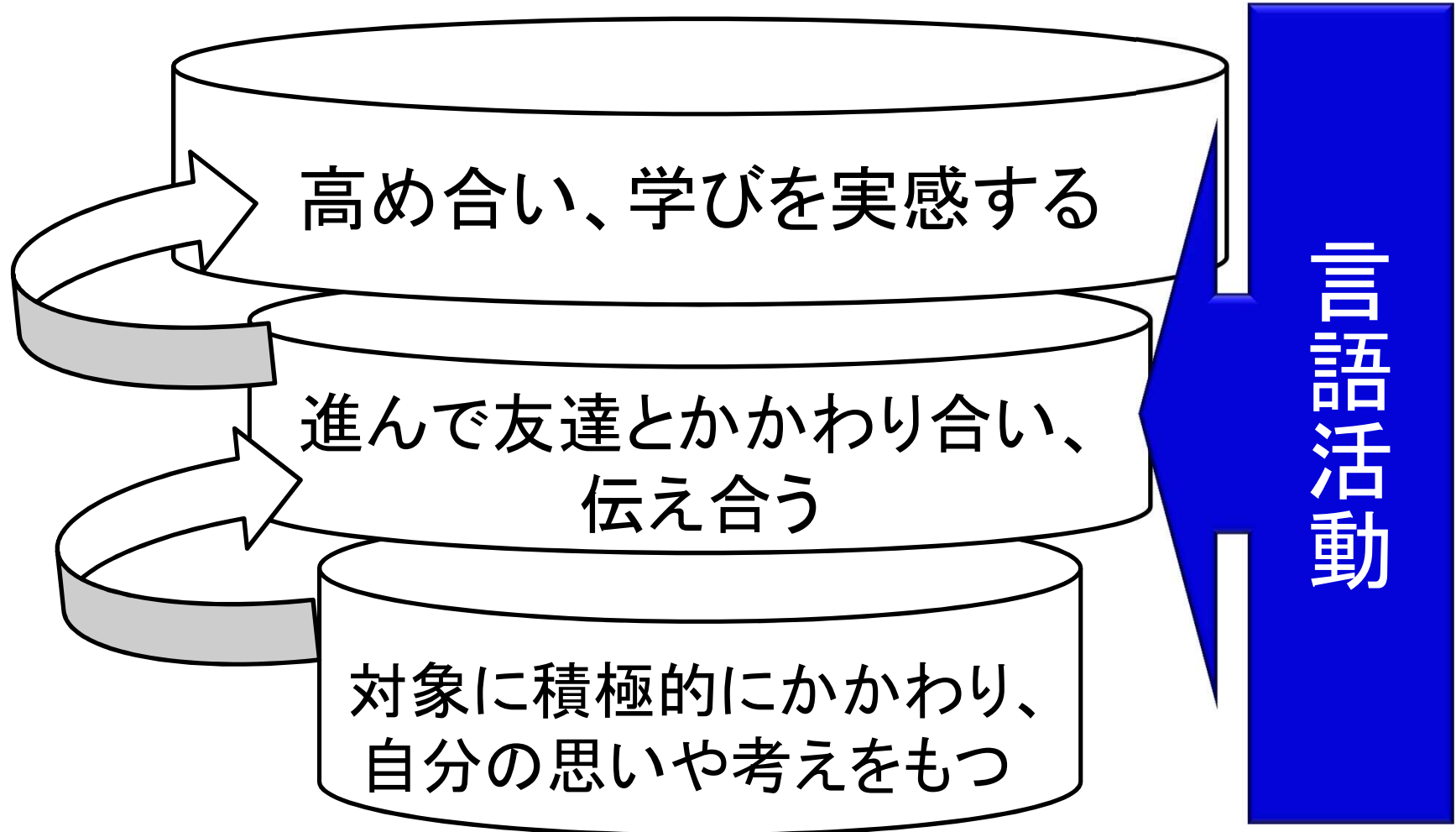
研究主題

多様な言語活動を通して、
学びを実感する子どもの育成(1年次)

研究の内容

H23研究主題「進んでかかわり合い、高め合う子どもの育成」

◆3段階の学びのプロセスを軸とした授業実践



研究主題の達成に向けて

- 言語活動を中核に据えた学習デザインのあり方
- 言語活動をどのように捉え、どのような学習をデザインしていくかについて、職員間でのイメージの共有化
- 研修体制づくりからの見直し、それを受けての授業実践という両輪での研究推進

はじめに

I 問題の所在

II 支援の方法

III 支援の実際

IV 支援を通じた学び

支援の方法

【校内授業研究への支援】

- ・研究推進委員会の一員という位置付け
- ・指導案を構想する段階からの支援
- ・本時のみならず公開授業單元において、授業補助を行い、ともに授業を作るというスタンスでの支援
- ・協議会への参加や授業分析といった事後の支援

【研修体制の整備】

- ・言語活動に関する校内研修会の設定
- ・指導案検討会の改善

はじめに

I 問題の所在

II 支援の方法

III 支援の実際

IV 支援を通じた学び

言語活動のとらえ

- 言語活動の定義：

「探究的な活動の中で、活用を図ることにより、言語的思考にかかわる知識・技能および教科にかかわる知識・技能を確かなものとする、言語による表現を伴う相互作用的な活動。」

言語活動のとらえ

- 言語活動の定義：

「探究的な活動の中で、活用を図ることにより、言語的思考にかかわる知識・技能および教科にかかわる知識・技能を確かなものとする、言語による表現を伴う相互作用的な活動。」

国語科以外の教科・領域における 言語活動の成立条件

清水・松本・井上(2011)

① 教科に即した形式の重視

- ・旋律の特徴(旋律の繰り返し、曲のまとまり等)
- ・音楽的用語(続く感じ、終わる感じ、音の動き、リズム等)

② コミュニケーションの重視

- ・自分たちの旋律を練り上げる場面
- ・友達の旋律のよいところを見付けたり、分からないところを質問したりする場面

◆6年生 音楽科授業実践から

〈単元名〉「北小BGMをつくろう」

〈単元の流れ〉(全4時間 本時3)

単元のゴールを明示
(活動目標を明確化)

第1時にて旋律の特徴を
調べ、音楽のしくみを学ぶ。

- ・北小のBGMを作ることを知る。
- ・2教材の旋律の特徴を学ぶ。
- ・曲のまとまりを生かして8小節の旋律づくりをする。
- ・カードに穴をあけ、手回しオルゴールで演奏する。
- ・グループの中から代表の1曲を選択する。
- ・グループごとに、放送の場面に合わせた16小節の曲をつくる。

第4時

- ・それぞれの「感想を発表し

導入段階で学んだ音楽科特有の旋律を特徴付ける要素(用語)を用いながら話し合うことで、音楽科の知識・技能の活用と習得を図った。

◆6年生 音楽科「北小BGMをつくろう」(本時) 交流場面プロトコルデータから

27KA:じゃあ次どうする？

((以下、Cがリコーダーで演奏しながらの話し合い))

28YY:繰り返したから繰り返していいんじゃない？

29OM:どうする？

30YY:え、まってまって。ソかシかレでおわんない、おわるんでしょ？
ソシレシは？

31TS:繰り返してやった方が絶対簡単だよ。

32YY:その繰り返し、シ、シ、その繰り返し。

33OM:え、ソラシラもいいと思うよ。

45KA;ソラシラ。続く感じだよね。

46YY:続く感じだよね。ソラシラソラシラ



◆6年生 音楽科「北小BGMをつくろう」(本時) 交流場面プロトコルデータから

27KA:じゃあ次どうする？

((以下、Cがリコーダーで演奏しながらの話し合い))

28YY: **繰り返し**だから**繰り返し**でいいんじゃない？

29OM: どうする？

30YY: え、まってまって。**ソカシカシでおわんない**、おわるんでしょ？
ソシレシは？

31TS: **繰り返し**でやった方が絶対簡単だよ。

32YY: その**繰り返し**、シ、シ、その**繰り返し**。

33OM: え、ソラシラもいいと思うよ。

45KA: ソラシラ。**続く感じ**だよね。

46YY: **続く感じ**だよね。ソラシラソラシラ

導入段階で学んだ
「旋律の繰り返し」「続
く感じ」といった旋律
を特徴づける要素を
考慮しながら、用語を
用いて話し合う姿が
確認された。

成 果

- 探究的な課題が単元をつらぬくものとなり、音楽的用語を活用しながら話し合う姿が見られた。
- 旋律づくりの活動が音楽科の知識・技能を活用し、習得する学習として成立した。
- 指導案に「言語活動の場面」や「言語活動ではたらく知識・技能」の項目を位置づけることで、内容的にも形式的にも提案性のある授業となった。

課 題

- 個々の児童の実態に合わせて手立ての修正を講じる必要があった。
- 全員が楽器を持って話し合いに臨んだことで、話し合いの最中に楽器で曲を試す方に傾斜がかかったグループも見られた。

国語科における言語活動の成立条件

清水・松本・井上(2011)

① 話す・聞く・書くことの知識・技能の重視

- ・解説型説明文を書くために必要な要素
- ・話し合いの観点の明示

② 学習者に応じた内容をつくる

- ・紙芝居を他学年に発表するという実の場の設定
- ・相手意識・目的意識を持たせる課題設定

◆3年生 国語科授業実践から

〈単元名〉「へんしん紙しばいをつくる」
 の流れ〉（全13時間 本時

単元のゴールを明示
 （活動目標を明確化）

説明文を書くために読み、読み取ったことを活かして解説型説明文を書くという流れ

- ・へんしん紙しばいを他学年に発表することを知る。
- ・教材文「すがたをかえる大豆」を読み、学習の見通しをもつ。

- ・教材文の「はじめ・中・終わり」の構成をつかむ。
- ・説明文のまとめ方を教材文から学ぶ。

- ・調べたい食材を選び、資料を使って調べると決める。
- ・調べたことをもとに説明文にまとめる。
- ・互いの説明文を読み合い、話し合う活動を通して、相手に分かりやすく伝わる文章に推敲する。
- ・給食時に各学級を回り、できあがった紙芝居を紹介する。

メンバーの書いた説明文を互いに検討し合う交流活動を組織する。

成 果

- 探究的な課題により、説明文を学ぶことや説明文を作成することへの必然性が高まった。
- 相手意識・目的意識を学習者に共有させることで、話し合いの活性化が図られた。
- 話し合いを活発にするため、授業者の作成したモデルを用いて提示することで共通理解が図られた。

課 題

- 話し合いにおける検討の観点を示したことで、形式的な話し合いに終始したグループも見られた。
- 取り出した情報に関する知識の共有がないグループでは、内容面での検討が困難であった。

はじめに

I 問題の所在

II 支援の方法

III 支援の実際

IV 支援を通じた学び

支援を通した学び

1 校内授業研究への支援を通した学び

① 探究的な活動の在り方について

- ・学習者にとって必然性のある探究的な課題を設定する。
- ・授業者は活動目標に加えて、指導目標を見定めて学習をデザインする。

② 学習者の実態に応じて言語活動の内容をつくる

- ・児童の実態を見極め、能力に見合った学習活動を仕組む。
- ・学習が実の場となるようなデザインと、そのための教材研究が必要である。

支援を通じた学び

2 研究体制への学び

① 研修体制の改善

- ・テーマおよび教科の絞り込み
- ・研修の場の設定（職員間での共通理解）

② 指導案検討会の見直し

- ・次回へとつながる体制づくり
- ・見通しをもてる体制づくり

引用・参考文献

- 1)松本修:「言語能力を育成する「国語」の授業改善」,
『教育時評』, No.21, pp.16-19, 学校教育研究所,
2010.6.
- 2)清水登紀子・松本修・井上功太郎:「言語活動の成立
条件に関する臨床的研究」,『全国大学国語教育学
会 国語科教育研究 第120回京都大会研究発表要
旨集』, pp.283-286, 全国大学国語教育学会, 2011.
- 3)松本修:「言語活動をどうとらえ、どう組織するか」,
Groupe Bricolage紀要NO.30, pp.11-13, 2012.12.
- 4)清水・松本・井上(2011):前掲論文

- 探究的な活動...学習者が自らの活動目標を把握し、達成したかどうかを理解できる活動
- 活用...既習の、あるいは新たに身に付けた知識・技能を活動の中で意味のある形で用いること
- 言語的思考にかかわる知識・技能...言葉を用いて思考するための知識・技能
- 言語による表現...話す・聞くばかりでなく書く・読むも含む言語による表現
- 相互作用的な活動...相互に理解し合うだけではなく、そのことによって自らの思考・表現を省察し、新たな関係の構築に向かうような活動

◆6年生 音楽科「北小BGMをつくろう」(本時)

交流場面プロトコルデータから

14KA: どうする？ 山になる感じがゆっくりにいく感じが／／Oちゃんやって。

15OM: ／／わかんない。

16OM: うふふ。山？

17KA: なんかさ、上がってまた下がるって感じだけど。

18OM: うん。

21YY: 繰り返しかなんかにする？

22KA: 繰り返す感じがいいと思う。

23OM: あっ、でもなんか((音符を貼り付け、リコーダーで演奏する))

24YY: ((Dに対して))どっちがいい？ ソだよソ、ソーラーソラシラ？

25OM: シ？

26YY: ソーラーシーラー。

◆6年生 音楽科「北小BGMをつくろう」(本時)

交流場面プロトコルデータから

14KA: どうする？ **山になる感じ**か**ゆっくりにいく感じ**か／／Dちゃんやって。

15OM: ／／わかんない。

16OM: うふふ。山？

17KA: なんかさ、**上がってまた下がるって感じ**だけど。

18OM: うん。

21YY: **繰り返しか**なんかにする？

22KA: **繰り返す感じ**がいいと思う。

23OM: あっ、でもなんか((音符を貼り付け

24YY: ((Dに対して))どっちがいい？ソだよ

25OM: シ？

26YY: ソーラーシーラー。

導入段階で学んだ
音楽科特有の旋律を
特徴付ける要素(用語)
を用いながら話し
合う姿が確認された。

北小BGMをつくろう 5班プロトコル A:男子1 B:男子2 C:女子1 D:女子2

C・D ((ここまで作曲した曲をオルゴールで演奏する。2回))

A ((同じくオルゴールで演奏する。1回))

C・D ((ホワイトボードの楽譜に向かい、小声で相談))

1C:えっと、やろ。

2A:えっと、これがやまにしのつくったやつ。

3C:だからさあ、適当にひいてみよ。

4A:これ1回ひいてみて、これに合うような感じにすればいいんでしょ。

5C:((リコーダーで演奏する))

((Aがリコーダーで加わる。残りのメンバーもリコーダーを出す。みんなで演奏する))

6C:どうしよう？

7A:おれ鍵盤なんだよな。((鍵盤ハーモニカを出す))

8C:どうしよう。((リコーダーで演奏する))

9A:((鍵盤ハーモニカで演奏する))

10C:何で急にそれなの？

11A:きのう練習したじゃん。

12B:きのうだっけ？

13D:わかんない。まあいいや。

14C:どうする？山になる感じがゆっくりにいく感じが／／リーダーDちゃんやって。

15D:／／わかんない。

16D:うふふ。山？

17C:なんかさ、あがってまた下がるって感じだけど。

18D:うん。

19A:じゃこれを付けてみればこれで((貼り付け用の音符を取る))

20C:適当に付けてみて。

21A:繰り返しかんankanにする？

22C:繰り返す感じがいいと思う。

23D:あっ、でもなんか((音符を貼り付け、リコーダーで演奏する))

24A:((Dに対して))どっちがいい？ソだよソ、ソーラーソラシラ？

25D:シ？

26A:ソーラーシーラー。

27C:じゃあ次どうする？

((以下、Cがリコーダーで演奏しながらの話し合い))

28A:繰り返したから繰り返していいんじゃない？

29D:どうする？

30A:えまってまって。ソかシかレでおわんない、おわるんでしょ？ソシレシは？

31B:繰り返してやった方が絶対簡単だよ。

32A:その繰り返し、シ、シ、その繰り返し。

33D:え、ソラシラもいいと思うよ。

34A:これ全音符？

35T:ごめん、全音符なかったもんね。

36C:ね、最後さ()あってソラシララっていうの。

37A:いいよ。でもさ、一回これでやってみよ。

38D:ラ?((音符を持ちながら))ソ?

39C:そうじゃなくてラでしょう。ソラシラ。

40D:これでしょ。緑だから。((休符を手に行っていると思われる))

41D:ここに入れるんだっけ。

42B:ま、まるは黄緑でいいだろう。

43C:ソラシラ

44A:((鍵盤ハーモニカで演奏する。ソラシラ))

45C:ソラシラ。続く感じだよね。

46A:続く感じだよね。ソラシラソラシラ

47D:最後は何で終わるんだっけ。

48A:え、ソカシカレ。

((それぞれ演奏する))

49D:どこ?

50B:Aやろう。((一緒に演奏するよう誘っている))

51A:いいよ。

支援の流れ（公開授業まで）

単元・教材の決定（授業者・研究推進委員会）



← 資料提供

単元構想（授業者・支援チームの協働）

← アドバイス



指導案検討会（授業者＋研推＋チーム）**＋次回の授業者**

＋ 次回授業者の単元構想を語る会

← 授業補助



公開授業

← アドバイス

← 授業分析